



風評被害に悩む本町を応援

日刊スポーツで本町が紹介される



役場を訪れた金子さん。応援ありがとうございます

スポーツ新聞「日刊スポーツ」の営業マンが自転車で全国各地を巡り、街の元気を伝える「ニッポンの元気探し隊!」。このコーナーを担当する金子眞仁さんがこのほど本町を訪れました。

11月22日には、自転車で町役場を訪問。町のイベントや観光情報などについて情報を収集した後、風評被害に悩む町内の民宿の取材に向かいました。この内容は、11月26日の東京版、東北版の同コーナーに掲載されました。金子さんのお母さんは、下館出身とのこと。「猪苗代は観光資源が数多くある、本当にすてきな街。皆さん、ぜひ猪苗代へ!」と応援していただきました。インターネットでも見られます <http://japan47.nex.nikkansports.com/>

細菌などの優れた研究を表彰

本町で初の野口英世医学賞授賞式



表彰を受ける岡村氏とはるみ夫人

細菌やウイルスに関する優れた研究を表彰する野口英世記念医学賞の授賞式は11月10日、学びいなで行われ、兵庫医科大学腫瘍免疫制御学特任教授の岡村春樹氏と同大学長で免疫学・医動物学教授の中西憲司氏の功績をたたえました。博士生誕の地である本町での開催は、55回目にして初めてのことです。

両氏の研究は「インターロイキン-18(IL-18)の発見とその生体防御における役割」で、難病の原因解明と治療法の確立に貢献する独創的な研究として評価されました。授賞式では受賞者による記念講演も行われ、研究の成果が披露されました。

住警器の早期設置を訴える

消防署員らが街頭啓発活動を実施



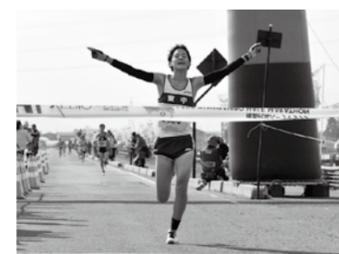
買い物客にチラシなどを手渡す消防団幹部ら

会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部と猪苗代消防署の街頭啓発活動は11月9日、ヨークベニマル猪苗代店で実施されました。活動には消防署員の他、町消防団幹部、町婦人消防隊、纏の会などから15人が参加。買い物客に防火を呼び掛けるチラシやティッシュなどを配り、火災予防と住宅用火災警報器の設置を呼びかけました。

署員らは「本町の住警器設置率はまだまだ低い。自分の命は自分で守るという意識を持ち、早期に設置してほしい」と真剣な表情で呼び掛けました。

復興を願って猪苗代を疾走

猪苗代湖ハーフマラソンを開催



写真上 親子の部(2歳)のゴール前でデッドヒートを繰り広げる渡部誠さん・峻太さん親子(右・四ツ谷)と鈴木元一さん・有人さん親子(左・八千代)。渡部さん親子は3位で2年連続の入賞、鈴木さん親子は4位入賞を果たしました

写真下 中学生男子の部(5歳)で優勝した東中3年の神汰輝さん。中学生の部では男女とも、ふくしま駅伝のメンバーや猪苗代中特別バドミントン部の部員らの活躍が目立ちました



カメラナをスタートしたハーフマラソンの参加者ら

猪苗代湖や磐梯山を望むコースを走る「猪苗代湖ハーフマラソン2012」は10月21日、町総合体育館カメラナをスタート、ゴールで開催されました。レースはハーフマラソンを中心とした計13部門で争われ、出場した約2000人のランナーが秋の猪苗代路を力強く駆け抜けました。

東日本大震災からの復興などを目的に開催されたこの大会には、ゲストランナーとして北京オリンピック男子マラソン代表の佐藤敦之選手が参加。沿道からは大きな声援が送られました。レース後のインタビューで佐藤選手は「『福島を盛り上げてくれてありがとう』『帰って来てくれてありがとう』という励ましに涙がこみ上げました。復興に向けてみんなで頑張っていきましょう」と話しました。

兼載ゆかりの地などを巡る

栃木県那須町の皆さんが本町訪問



土津神社奥の院の前で記念撮影

栃木県那須町の芦野地区地域づくり委員会のメンバーは11月10日、本町を訪れ、猪苗代兼載ゆかりの地などを巡りました。

兼載が同地区で晩年を過ごしたことから、同委員会では兼載の記念事業を展開。事業の一環として研修に訪れたものです。

同委員会の委員ら32人は、猪苗代の偉人を考える会(江花俊和会長)の案内のもと、小平瀧天満宮や兼載の記念碑などを訪問。新そばまつりでの昼食後、土津神社などを見学しました。

江花会長は「兼載を通して、お互いの地域活性化のため、今後さらに交流を深めていきたい」と話しました。